

# 第1回 大宮駅交通結節点事業計画検討会

## 議事概要

■日時 令和3年4月21日(水) 10:00~12:00

■場所 さいたま新都心合同庁舎2号館14階 災害対策本部室  
(一部委員は、テレビ会議にて参加)

### ■出席者

【座長】	日本大学理工学部土木工学科 特任教授	岸井 隆幸
【委員】	埼玉大学大学院理工学研究科 教授	久保田 尚
	東京大学大学院工学系研究科 教授	羽藤 英二
	東日本旅客鉄道(株) 総合企画本部 投資計画部 担当部長	齊藤 誠
	東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 総務部 企画室長	金森 勇樹
	埼玉県 警察本部 交通部長	岩根 忠 (代理:金田 敦之)
	埼玉県 県土整備部長	北田 健夫 (代理:吉岡 一成)
	埼玉県 都市整備部長	村田 暁俊 (代理:宮田 敏之)
	さいたま市 副市長	小川 博之
	さいたま市 都市局長	土屋 愛自
	さいたま市 建設局長	村上 孔
	国土交通省 関東地方整備局 道路部長	高松 諭
	国土交通省 関東地方整備局 建政部長	大井 裕子
	国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所長	阿部 俊彦

(※順不同、敬称略)

【事務局】さいたま市 都市局 都市計画部 交通政策課  
国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 計画課

### ■欠席者

【委員】一般社団法人埼玉県バス協会 専務理事 鶴岡 洋

### ■議事

- 規約は規約(案)のとおり了承。
- 座長は互選により「日本大学特任教授の岸井隆幸委員」に選出。
- 「事業計画検討会の設置」、「広域交通拠点「大宮」の特色」、「大宮駅周辺等の課題」、「バスプロジェクト」、「交通拠点と防災機能のあり様」、「新たなモビリティサービスに関する取組」、「今後の検討の進め方」について、事務局より説明され、引き続き具体的内容を議論し、調整していくことを確認。

## <委員からの主な意見>

- 高速バスの方面別利用者数の把握やP T調査等の分析を行い、大宮駅における高速バス利用の潜在的な需要や周辺バスタへの影響について把握する必要がある。また、高速バスから降りた人が、どのような行動をするのか把握する必要がある。
- 駅周辺の交通混雑がある中で、バスタへのアクセスについて具体的な検討や、どのようにバスを捌くのかシミュレーション等により把握する必要がある。
- 大宮は、新幹線、高速道路ネットワークが充実しており、他の地域には見られない事例となる期待がある。特に鉄道・新幹線と高速バスとの円滑な乗換えが焦点になる。
- 大宮は首都圏全体で見ても重要な地域であり、そこに高速バスの拠点を整備する意味について、考え方を整理する必要がある。加えて、大宮～さいたま新都心の地域のためにバスタで何を対応すべきか考える必要がある。バスタの機能は、広域的な視点と地域としての視点の両方から検討する必要がある。
- さいたま市や大宮～さいたま新都心周辺地域にとって、どれくらいプラスになるかも必要な視点で、単なる交通結節点でなく、人々の滞留の結節点となるようにハード面・ソフト面の両面で検討が必要である。
- G C S 構想に対してバスタがどのように貢献するのが重要な視点である。バスタができることで歩行者空間が広がり、デッキや新たなモビリティ等で近隣の資源を結び付けることができ、回遊性の向上が図れることが都市の機能として重要である。
- 自動運転のあり方・ネットワークも考慮し、バスタの整備位置を検討する必要がある。
- 交通機能だけでなく防災機能をバスタに持たせることが重要である。災害時における電力確保や地域全体の機能を失わないために何が必要か考える必要がある。
- 平常時だけでなく災害時も想定してバスタの容量を検討する必要がある。北陸や東北方面に対しては、大宮が高速バスの拠点となり得るので、大胆なスペースの取り方を空間的に検討してほしい。その時、平時に使われていないような状況にならないために、平時の機能をどのように開発と連動させられるか、地域の資源との連携が重要な視点になる。
- 駅周辺での人の流れが大きく変わると想定されるため、バスタで継続的にデータ収集できる常時的な観測システムの様なものも必要ではないか。
- 大宮は空港連絡バスが発着しており、海外からの来訪者が初めて降り立つ地となることもあり、東日本の玄関口だけでなく日本の玄関口となる可能性もある。インバウンド対応については、インバウンドが多いから多言語化対応が必要というだけでなく、より広い視点での必要性の整理を検討してほしい。
- 今後、バスタに必要な機能の議論と並行して、空間的な議論についても進めていく必要がある。

以上